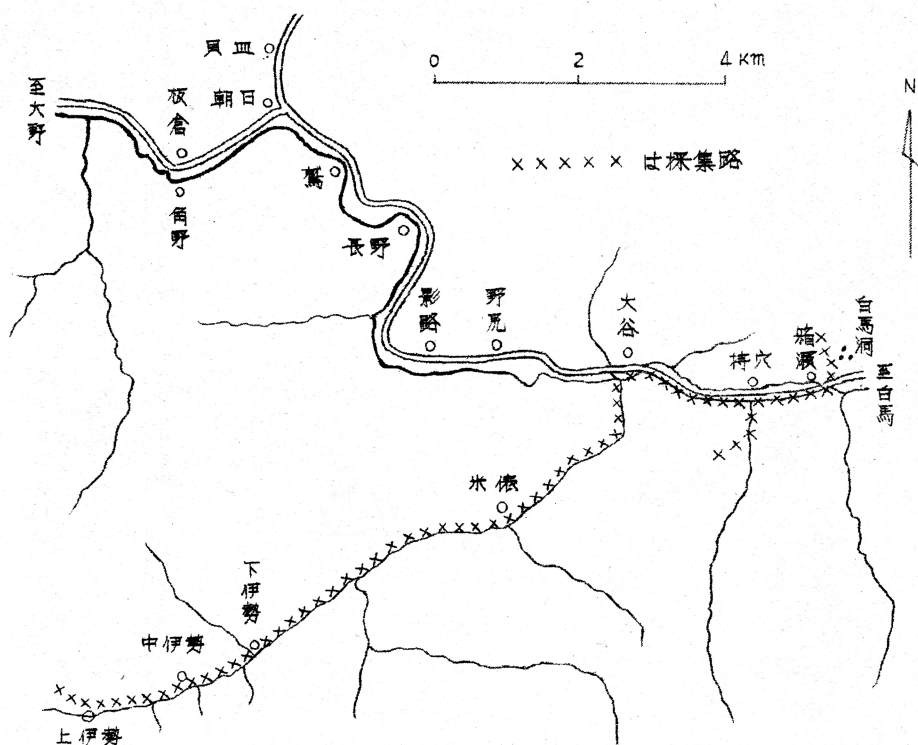


## 採 集 記

## 春の奥越上穴馬村植物採集記



昭和30年5月1日から3日まで、堀、荒川、寒蟬の3名は、上穴馬村の化石採集を兼ねて春の植物を調査したので、その概況を報告する。

。大谷 — 上伊勢 (5月1日)

前日大谷に宿をとつた一行は、上伊勢まで約12kmの県道沿いに歩いた。大谷の標高は480m、上伊勢は650mで、道は伊勢川に添った陡い上り坂で、1000m前後の山に囲まれた狭い谷間にある。春のおそい奥越ではあるが、山々の新葉の緑が美しい。しかしこの緑も日陰になる左岸が右岸より淡く、上るにつれ枯木のような姿が目立つて来る。

この緑の主なものは

サワグルミ、シナノキ、トチノキ、スナ、クマシデ、サワシバ、ハクウンボク、キスシマルバマンサク、ヤスデマリ、コバノガマズミ、ミツバウツギ、ヒメウツギ、タニウツギ、ウツギ、バйкаウツギ、ムシカリ、タムシバ、タシコウバイ、シロモジ、クロモジ、ハウチワカエデ、イタヤカエデ、コハウチワカエデ、ウリハカエデ、チドリノキ、マ

ルバノキ、

等で、この間に

キンキマメサクラ、ヤマサクラ、オオヤマサクラ、オクチョウジサクラ、チョウジサクラ、

等の桜が淡紅色の花を開いている。尚川原一帯に栽培品か野生品かは不明だがナシの白い花が印象的であった。

之等の樹木の下に灌木には

ハイイヌガヤ、チャボガヤ、ツリバナ、コマユミ、ヤマツツジ、サイコクミツバツツジ、ムラサキヤシオツツジ、サツキ、ヤマズキ、モミジイナゴ、クマイチゴ、アオキ、メギ、サルマメ、

等がある。特にヤマズキの黄色、モミジイナゴの白、ツツジ類の橙乃至赤紫は美しい。

草本は陰湿地に

ホクリクネコノメ、ヤマネコノメ、ネコノメソウ、シヤク、ミヤマキクマン、ヤスケマン、ミヤマカタバミ、ルイヨウボタン、イチリンソウ、ニリンソウ、キクザキイチケルリイチケ、ハルトラノオ、ナルコスガ、マタイオウ、

等が咲られ、その他の場所には

ツボスミレ、タチツボスミレ、オオタチツボスミレ、スミレサイシン、シハイスミレ、エソスミレ、タンポポ(数種)、ミミナグサ、ノミノフスマ、タネツケバナ、コメカヤ、コウボウ、イカリソウ、シロイヌナズナ、クサボタン、ボタンズル、エンレイソウ、ヤマオウマキ、ジュウニヒトエ、ラショウモンカズラ、カキドオシ、ホトケノサ、ソバナ、ウバユリ、カタクリ、ハルリンドウ、キジムシロ、スイバ、ニシノホンモンジスゲ、オクノカンスゲ、ショウジョウスガ、ニかな、フキ、アサミ類、イカリソウの一種

等が咲られる。白乃至青紫色のスミレ類、黄色のタンポポやキジムシロ、赤紫のカタクリ、紫青色のラショウモンカズラは今が花盛りでことに美しい。

上記植物中、シロイヌナズナは始めての採集品であり、マルバノキ、サツキ、サルマメは県下では越前国境山地にのみ知られているものである。タンポポ、サクラ、スミレ等については確かでないものもあるので、之等はそれぞれの専門家の同定を得て改めて発表する予定である。

#### ○ 大谷 — 白馬洞 (5月2日)

国道沿いのこの道の両側の景観も殆ど前日と同様であるので、特に新しいものについてのみ報告する。

大谷部落を離れて間もなく右手の崖にホソバトウケシバ、マンネンズギ、ヤマソテツ等が見られた。ホソバトウケシバが500 m 程の標高に出てくるのは珍しいのではないかと思う。

あまり多くはないが所々にイワカラミ、ハナイカダ、クロウメモドキ、サイコクミツバ

ソツジ、ナツハゼ、ズミ等が見られる。神穴部落附近にソヨゴがあるが、このような異地まで入り込んでいるのも珍しい。アゼスゲもこの附近で始めて現れた。

箱瀬附近から先にヤスレガサが非常に多い。ドクウツギもこの辺から現れて来た。センボンヤリの可憐な花も所々で見られる。ミスミソウもこの辺にのみ見られた。

私たちは昨年末ユキツバキの分布状態を調査しているのであるが、この辺には栽培品は見られるが、自然のものは見つからない。帰途のバスの中からの観察では勝原附近にはあるようである。

#### ○ 下田洞谷石灰岩地帯 (5月2日)

箱瀬部落を過ぎ白馬洞入口を入ったあたりはゴトランド紀の石灰岩地帯である。近頃石灰岩地帯の植物分布が問題となっているので、この一角をなす下田洞谷の植物を調査した。以下二〇に見られる植物をあける。

羊歯植物……クジャクシタ、リヨウメンシタ、サカゲイノホ、ワラビ、

裸子植物……スギ、

双子葉類高弁花類……クマシテ、イヌシテ、ミスナラ、ツノハシバミ、アカソ、ツクバネ、マルバカンアオイ、ボタンズル、ゴヨウアケビ、ホウノキ、シロモジ、クロモジ、ウツギ、オオバシヨリマ、マルバマンサク、キンミスヒキ、ヤマスギ、クマイナゴ、ウワミズサクラ、アサクラザンショウ、イヌツゲ、ツリバナ、ハウチワカエデ、コハチワカエデ、イタヤカエデ、ヤマモミジ、ヤマブドウ、マタタビ、タチツボスミレ、オオタチツボスミレ、スミレサイシン、タラノキ、

双子葉類合弁花類……サイコクミツバツツジ、サワフタギ、エゴノキ、ラショウモンカズラ、アキギリ、アカネ、タニウツギ、ミヤマガマスミ、ヤスレガサ、タムラソウ、アサミの一種、

単子葉類……ニシノホンモンジスギ、タカネソウ、オクノカンスギ、オウバギボウシ、

#### ○ 白馬洞 (5月2日)

下田洞谷のすぐ近くには巨大な石灰岩の露頭がある。これが白馬洞で、この石灰岩に附着している植物を調査した。

羊歯植物……オウレンシタ、ツルテンダ、クモノスシタ、ヤスソテツ、イヌワラビ、シケシタ、

裸子植物……ハイイヌカヤ、チヤボガヤ、スギ、

双子葉類高弁花類……ツノハシバミ、イヌシテ、クマシテ、サワシバ、クヌギ、ミスナラ、ケヤキ、ミヤマイラクサ、ミミナタサ、フササクラ、キケンショウマ、セリバオウレン、クサボタン、ミツバアケビ、ムラサキケマン、クロモジ、シロモジ、メノマンネンタサ、ヒメレンゲ、イワガラミ、アカショウマ、ヤブデマリ、タイモンジソウ、ウツギ、バイカウツギ、ヒメウツギ、カマツカ、オオフジイバラ、オクチヨウジ



サクラ、オオヤマサクラ、ウワミズサクラ、フジ、ミヤマカタバミ、アサクラザンショウ、イヌツゲ、サワタツ、ツルマサキ、ツリバナ、コマユミ、ナドリノキ、ハウチワカエデ、イタヤカエデ、ウリハダカエデ、ウリカエデ、トチノキ、クロウメモドキ、シナノキ、タチツボスミレ、スミレサイシン、ギアシ、ハナイカダ、ヤマボウシ、アオキ

双子葉類合弁花類……サワタツ、エゴノキ、ムラサキシキブ、ニワトコ、ヒヨドリバナ、アキノキリンソウ、ヤマボクチ、アザミの一種

単子葉類……オクノカンスゲ、ニシノホンモンジスゲ、オオバキボウシ、サルマメ、尚この地帯の地上には見られるが、石灰岩上には附着していないものには次の如きものがある。

羊歯植物……シシガシラ

双子葉類離弁花類……イタドリ、マツスサ、ホホノキ、ゲンノショウコ、エゾユズリハ、ソヨゴ、トチバニンジン

双子葉類合弁花類……ヤマツツジ、オカトラノオ、イボタノキ、ヤマルリソウ、アキギリ、ラショウモンカズラ、ジエウニヒトエ、ヤブレカサ、オトコエシ、

単子葉類……ササの一種

(寒 蟬 義 一 記)

## 坂井郡三里浜植物採集記

昭和30年5月8日、鮎川の化石採集の帰途、時間半程の時間をさいて坂井郡川西村免高から西畑までの海岸を採集した。短時間の採集で見落としもあるかと思うが、海岸の蒼の採集はあまり行われないので、始めて見る花もあり有意義であった。特にコバンソウの群落が非常に多くこのような景観は始めてであり、ハマエンドウやマツヨイタサの花も非常に美しかった。

開花中のもの……ノジシヤ、ハマエンドウ、ドクムギ、コバンソウ、スズメノマリ、ノボロギク、ウマゴヤシ、アキタミ、ミヤコグサ、キツネガヤ、マツヨイタサ、ノミノフスマ、ノミノツツリ、ウシノケグサ、ナギナタガヤ、オオジシバリ、<sup>?</sup>クサスゲ、ヌカボ、ミミナグサ、オランダミミナグサ、カスマグサ、ツルナシカラスノエンドウ、スズメノエンドウ、スイバ、キツネガヤ、コウボウムギ、ハマニガナ、

その他……オオマツヨイタサ、タチイヌノフグリ、ハマヒルガオ、カワラマツバ、ウンラン、メドハギ、ネコハギ、ハマゴウ、ムシトリナデシコ、カナビキソウ、カワラサイコ、カラスザンショウ、オトギリソウ、クロウメモドキ、ハマゴウ、アキノキ